
京教自然愛好家の集い Lon

第1章 プロジェクトの概要

1. プロジェクトの名称・目的

1.1. プロジェクト名称

京教自然愛好家の集い Lon

1.2. 目的

近年では簡易にアクセスすることができる自然が減少しているが、しかし京都教育大学には豊かな自然があり、そして身近に手を触れることができると考えた。

また、学校現場では生活科や理科などで自然に関する教育が行われるが、これまで自然にかかわった経験が少ない学生もいると考えられる。

そのため、京都教育大学の自然を、学生などに対して発信し、大学の自然に対して興味や関心を持ってもらうことを目的とする。

2. 代表者および構成員

・代表者

佐藤 隆亮 教育学研究科 1 回生

・構成員

中井 裕彰 連合教職大学院 1 回生

大井 洋樹 連合教職大学院 1 回生

上原 志保 連合教職大学院 1 回生

3. 助言教員

藤浪 理恵子 先生 (理学科)

4. 協力者

今井 健介 先生 (理学科)

第2章 活動内容

1. 活動期間

2020 年 7 月～12 月

2. 年間活動

| 時期 | 活動 |
|---------|------------|
| 7～11 月 | 写真の撮影など |
| 11～12 月 | 学生課前での写真展示 |

第3章 主な活動内容

1. 写真展示

目的：京都教育大学で撮影した自然に関する写真を展示して、京都教育大学の自然について新しい発見をしてもらう。

2020 年 11 月から 12 月にかけて、学生課前ロビーで行った。附属図書館から借用した、展示用ボード 6 枚を使用して、京都教育大学内で撮影した動物、植物の写真 40 枚程度を展示した。写真は A4 用紙に印刷し、ラミネート加工をしたものを使用した。

また、接触を避けながら展示についての感想を知るため、Google フォームを使用したアンケートを実施した。URL を QR コード化したものを展示とともに掲示し、アクセスしてもらうこととした。





第4章 成果

1. 写真展示

展示期間中に新型コロナウイルス感染による休講が生じるなど、展示が人の目に留まる期間は短かったものの、観覧してくれた人からは肯定的な意見を得ることができた。

展示の感想について、「よかった」「よくなかった」の2択問題ではすべての回答で「よかった」といってもらうことができた。また、自由記述では、「写真として展示されていなければ見ることができない」や、「たくさんの生き物があることを改めて感じた」「不思議な自然特集なども見てみたい」といった、肯定的な感想を得られた。

また、人通りの多い学生課ロビーを使用して展示を行えたことで、多くの人々の目にとめる展示とすることができたと考える。

第5章 反省と今後の課題

1. 反省点

新型コロナウイルス感染拡大によって当初の計画とは大きく異なる形の活動となってしまった。特に、昨年度までは体験型展示や活動を主体としてきたが、人と人との接触を行えない状況となってしまったため、大きく方向転換する事になった。

こういった事情から活動時期が後ろ倒しになってしまった。結果論ではあるが、9月から10月にかけての期間に展示などを行えば、より良い結果を得られていたかもしれない。可能なときに可能なことをするという事が大切であると感じた。

写真展示は感想も含め一切の接触が必要ないように実施したが、かつて行ったような体験型展示ほどの感触を得ることはできなかった。感想を募る際も、紙と鉛筆を設置しておいて記入してもらうことと、Google フォームのQRコードを置いておいて各自のスマートフォンで回答してもらうことでは、手間が大きく違うようで多くの回答を得ることができなかった。

オンラインで可能な事の活用といった、新しい生活様式により適応した活動を考える必要があると感じた。

2. 今後に向けて

新型コロナウイルス感染症により一変した生活様式はおそらく来年度も大きく変わることはないと考えられる。外部の人間が出張して授業を行う、実物に触れるといったこれまでの効果的な手段を用いることは今後も難しいだろう。こういった状況の中で、自然・生物に関する学びをオンラインで行える取り組みを考えていきたい。

こういった取り組みによって、広域にわたって自然の少ない地域でも自然を感じることで活動を見出すことができると考える。

学校現場ではGIGAスクール構想によって

すべての小中学生が何らかの端末を使用することができるようになり、そして教員はこれを有効に使いこなす必要がある状況となった。この状況に適応した自然を学びに変えていける取り組みを考えることで、学習者及び教員にとって有益な知見を得ることができると考える。